

# 医療安全推進セミナー 報告書

---

2008年1月26日 於：横浜みなとみらい

2008年3月19日

医療安全推進運動実行委員会

運営事務局

厚生労働省認定 認定個人情報保護団体

内閣府認証 特定非営利活動法人

医療ネットワーク支援センター

## ご挨拶

このたびは「医療安全推進セミナー」にご後援、ご協力、ご協賛を賜り誠にありがとうございました。  
 “医療の安全文化醸成”と“医療安全の推進”を目的として、病院、診療所、歯科診療所、薬局等の各医療提供施設の従事者を対象に、医療提供の現場における医療安全管理対策として開催致しました今回のセミナーには、全国から医師・歯科医師・薬剤師・看護師などの医療従事者をはじめ、一般市民や関連企業を合わせて、約350名の方々にご参加いただきました。

このようにご好評をいただくことができましたのは、皆様のご支援によるものと、心より感謝申し上げます。

今後とも医療安全に対する意識啓発の活動を通じ、安全安心な社会の大きな要素である「安全な医療の提供享受の実現」に寄与してまいりたいと存じますので、ご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

## < 目次 >

活動経緯	p3
事務局の動き	p4
関係者名簿	p5
セミナー概要	p6
プログラム	p7
ポスター	p8
セミナー参加者内訳	p9
アンケート集計結果	p10～16
KYT展示パネル	p17～18
セミナー風景	p19～21
展示風景	p22
告知	p23～p24
掲載誌	p25
取材記事	p26
動画配信	p27

別紙資料  
 病院、歯科診療所、薬局のKYT資料

## 活動経緯

「平成18年度 医療安全推進週間」国民向けフォーラム 検討ワーキング反省会  
1月24日 厚生労働省 医政局会議室

議題：フォーラムの感想反省、今後の活動について

### 参加団体

社団法人日本医師会、社団法人日本看護協会、社団法人日本病院会、  
財団法人日本医療機能評価機構、日本赤十字社、医療の質安全学会、  
厚生労働省 医政局総務課 医療安全推進室、医療ネットワーク支援センター

### 患者参加の医療安全検討

### ブレインストーミング開始

#### 参加メンバー

東邦大学医学部 社会医学講座 長谷川友紀教授、助教 城川美佳氏  
京都大学大学院 医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野 中山健夫教授  
日本赤十字社 事業局 医療事業部 医療安全対策課 松本登紀子課長  
社団法人神奈川県看護協会 医療安全対策課 安井はるみ課長  
厚生労働省 医政局総務課 医療安全対策室 佐原康之室長、井上泰徳指導係長、久米翠主査、福園洋子係員  
特定非営利活動法人 医療ネットワーク支援センター 理事長 人見祐、清水能子

第1回 2007年2月21日 厚生労働省 医政局会議室

議題：活動の方向検討

第2回 2007年4月5日 厚生労働省 医政局会議室

議題：社会的な医療安全のムーブメントを起こすための手法検討と具体的な  
活動内容の絞込み

第3回 2007年9月4日 厚生労働省 医政局会議室

議題：サイトのコンテンツ、広報、実行委員会設立について

第4回 2007年11月2日 厚生労働省 医政局会議室

議題：医療安全推進セミナー開催概要検討、医療安全サイトについて

第5回 2008年1月23日 日本赤十字社 本社 会議室

議題：医療安全推進セミナー開催概要確認

### 各医療従事者が行う医療安全

### KYTワーキング開始

#### 参加メンバー

神奈川県歯科医師会 医療安全推進検討委員会 高津茂樹委員長  
神奈川県薬剤師会 嶋元 副会長  
横浜市立みなと赤十字病院 医療安全推進課 三上久美子課長  
社団法人神奈川県看護協会 医療安全対策課 安井はるみ課長  
特定非営利活動法人 医療ネットワーク支援センター 理事長 人見祐

第1回 2007年10月10日 神奈川県看護協会 会議室

議題：医科診療所、歯科診療所、薬局におけるKYTの現状

第2回 2007年10月22日 医療ネットワーク支援センター

議題：医科診療所、歯科診療所、薬局におけるKYTのテンプレート

第3回 2007年12月27日 神奈川県看護協会 会議室

議題：セミナーでの展示、活動報告内容の検討

## 事務局の動き

### 活動内容の企画調整および企画案作成

2007年2月～9月

- ・社会的な医療安全のムーブメント作りのための意見調整
- ・情報プラットフォーム（webサイト）構築のための調査および企画案作成
- ・イベントの企画案作成

### 医療安全推進運動実行委員会設立のための諸手続き

2007年10月～2007年12月

- ・実行委員会参加メンバーの調整
- ・実行委員会設立のための諸手続き

### 「医療安全推進セミナー」企画、運営事務局業務推進

2007年11月～2008年1月

- ・基調講演講師、パネルディスカッション講師の調整
- ・後援申請業務

#### 団体名・受理日

厚生労働省 12/5	(社)日本医師会 11/27
(社)日本歯科医師会 12/7	(社)日本薬剤師会 11/28
(社)日本看護協会 11/20	(社)日本歯科衛生士会 12/6
(社)日本病院会 11/19	日本赤十字社 12/14
日本医療機器産業連合会 11/22	
神奈川県 12/12	横浜市健康福祉局 12/5
(社)神奈川県医師会 12/14	(社)神奈川県歯科医師会 12/7
(社)神奈川県薬剤師会 11/30	(社)神奈川県看護協会 11/30
(社)神奈川県病院協会 12/5	

- ・広報、告知業務
- ・協賛企業渉外業務

### 各医療従事者が行う医療安全の発表準備

2007年10月～2008年1月

- ・病院、歯科診療所、薬局におけるKYT 調査検討
- ・KYTシート資料作成
- ・発表資料、パネル作成

## 関係者名簿 (順不同敬称略)

### 医療安全推進運動実行委員会 (7名)

<b>委員</b> 遠藤 順子	エッセイスト (故遠藤周作 夫人)
岡本 左和子	ヘルスケアコミュニケーター (元・ジョンズホプキンス大学病院国際部ペイシェントアドボケーター)
中山 健夫	京都大学大学院医学研究科 教授
長谷川 友紀	東邦大学医学部社会医学講座 教授
三浦 純一	公立岩瀬病院 外科部長 厚生労働省 認定個人情報保護団体 企画運営委員会委員長
人見 祐	特定非営利活動法人医療ネットワーク支援センター 理事長
<b>オブザーバー</b>	
佐原 康之	厚生労働省医政局総務課 医療安全推進室 室長

### プレストメンバー (10名)

佐原 康之	厚生労働省医政局総務課 医療安全推進室 室長
井上 泰徳	同 指導係長
久米 翠	同 主査
福園 洋子	同 係員
中山 健夫	京都大学大学院医学研究科 教授
長谷川 友紀	東邦大学医学部社会医学講座 教授
城川 美佳	東邦大学医学部社会医学講座 助教
松本 登紀子	日本赤十字社 事業局医療事業部 医療安全課長
安井 はるみ	(社)神奈川県看護協会 医療安全対策課長
人見 祐	特定非営利活動法人医療ネットワーク支援センター 理事長

### ワーキングメンバー (5名)

高津 茂樹	(社)神奈川県歯科医師会 医療安全推進検討委員会 委員長
嶋 元	(社)神奈川県薬剤師会 副会長 (社)日本薬剤師会 医療事故防止検討会 委員長
三上 久美子	横浜市立みなと赤十字病院 事務部医療安全推進課長
安井 はるみ	(社)神奈川県看護協会 医療安全対策課長
人見 祐	特定非営利活動法人医療ネットワーク支援センター 理事長

### 運営事務局メンバー (4名)

特定非営利活動法人医療ネットワーク支援センター  
 藤城 功 (経理、総務)、清水 能子 (進行管理)、  
 川久保 朋子 (広報)、角田 享洋 (渉外)

### セミナー制作、運営会社

株式会社ザ・プランズ  
 業務：セミナー運営進行管理、サイト制作

## セミナー概要

**タイトル** : 医療安全推進セミナー

**開催日時** : 2008年1月26日(土) 12:30開場 13:00 ~ 16:30

**開催会場** : はまぎんホール ヴィアマーレ  
住所 : 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-1-1

**対象** : 医療従事者(病院、診療所、歯科診療所、薬局等)、一般市民  
\*本セミナーは日本医師会の生涯教育制度の単位対象(3単位)となります。

**定員** : 500名

**参加費** : 3,000円(資料代込み)

**主催** : 医療安全推進運動実行委員会

**後援** : 厚生労働省 (社)日本医師会  
(社)日本歯科医師会 (社)日本薬剤師会  
(社)日本看護協会 (社)日本歯科衛生士会  
(社)日本病院会 日本赤十字社  
日本医療機器産業連合会 神奈川県  
横浜市健康福祉局 (社)神奈川県医師会  
(社)神奈川県歯科医師会 (社)神奈川県薬剤師会  
(社)神奈川県看護協会 (社)神奈川県病院協会

**協賛** : 株式会社メディコン テイコクメディックス株式会社  
株式会社損保ジャパンリスクマネジメント  
パラマウントベッド株式会社 株式会社安井電子出版  
テルモ株式会社  
(申込順)

**協力** : 第一法規株式会社

# プログラム

## 開会

- 13:00～13:05 開会挨拶  
長谷川 友紀 氏  
(東邦大学医学部社会医学講座 教授)
- 13:05～13:15 来賓挨拶  
佐原 康之 氏  
(厚生労働省 医政局総務課 医療安全推進室長)

## 第一部 / 基調講演

- 13:15～14:45 基調講演(各45分)  
座長：中山 健夫 氏  
(京都大学大学院医学研究科 教授)
- 13:15～14:00 「医療と患者を結ぶコミュニケーション」  
岡本 左和子 氏  
(ヘルスケアコミュニケーター、東京医科歯科大学大学院、  
元・ジョンズホプキンス大学病院国際部ペイシエントアドボケーター)
- 14:00～14:45 「医療現場における医療安全対策」  
橋本 徹 氏  
( (財)倉敷中央病院 呼吸器内科部長 医療安全推進室)
- 14:45～15:00 休憩

## 第二部 / パネルディスカッション

- 15:00～16:30 「医療現場における危険予知トレーニングの実際」  
司会：中山 健夫 氏  
(京都大学大学院医学研究科 教授)
- パネリスト：  
福島 統 氏  
(東京慈恵会医科大学医学部医学科 教授、教育センター長)
- 嶋 元 氏  
( (社)神奈川県薬剤師会 副会長)
- 杉山 良子 氏  
(武蔵野赤十字病院 医療安全推進室  
専従リスクマネージャー、看護師長)

## 開会

- 16:30 閉会挨拶  
人見 祐 氏  
(厚生労働省認定 認定個人情報保護団体  
内閣府認証 特定非営利活動法人  
医療ネットワーク支援センター 理事長)



# セミナー参加者内訳

セミナー参加者 アンケート 総数 : 約350名  
回収数 : 181名

所属・職種	看護	医療	安全	検査	事務	院長等	薬局	大学	未記入	総計
病院	54	10	25	2	10	2	2	0	37	142
診療所	2	0	0	1	0	1	0	0	2	6
歯科	0	4	0	0	1	1	0	0	3	9
薬局	0	0	0	0	1	0	2	0	0	3
介護	2	0	0	0	0	0	0	0	1	3
大学	0	0	1	0	0	0	0	4	0	5
行政	0	0	1	0	3	0	0	0	0	4
NPO	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
関連企業	0	0	1	0	2	0	0	0	1	4
未記入	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
総計	58	14	28	3	17	4	4	4	49	181

## アンケート内容

2008年1月26日

### 医療安全推進セミナーに関するアンケート

医療安全推進運動実行委員会

本日はお忙しい中「医療安全推進セミナー」にお越しいただき、誠にありがとうございました。  
医療安全推進運動実行委員会では、今後も医療提供施設における医療安全に関するセミナーの開催、専用サイトの運営など、さまざまな情報発信を行っていく予定です。それらの情報は、皆様にとってより身近で具体的な内容であることを目指しております。  
つきましては本アンケートを通じ、皆様のご意見、お考え、疑問点などをお寄せいただき、より適切な情報提供のために役立てさせていただきたいと存じますので、ご協力をお願い申し上げます。

#### アンケート

御名前:	施設名:	TEL:
e-mail:	所属 / 役職名:	

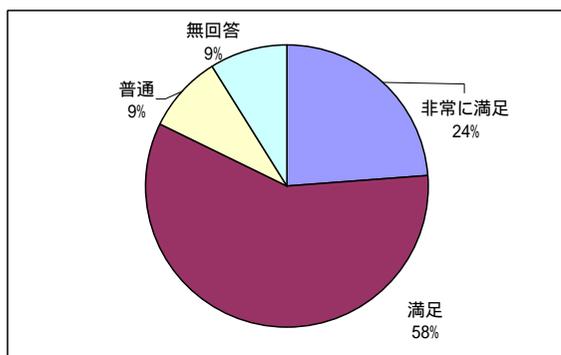
ご記入いただいた情報は医療提供施設を対象とする医療安全推進支援のための情報提供及びアンケート目的以外には利用いたしません。

- Q1: 本日の講演はいかがでしたか? 感想などもご記入下さい。  
A: 非常に満足 B: 満足 C: 普通  
感想・要望
- Q2: 安全な医療の提供において、コミュニケーションの必要性を感じておりますか?  
A: 強く感じていた B: 少しは感じていた C: あまり感じていない D: 感じていない
- Q3: 危険予知トレーニングを知っていましたか?  
A: 実際に取り入れている B: 内容は理解しているが、現場では実施していない C: 言葉だけ知っている  
D: 今日始めて知った
- Q4: 医療安全管理に対してどのように取り組まれていますか(複数回答可)。  
A: 特別に対応することはない(これまでの対応で十分) B: 専従のリスクマネージャーを配置している  
C: 院内研修を定期的に行っている(年 回数程度) E: 委員会活動を定期的(1回/月)行っている  
F: 何からどう対応すべきか分からない G: その他( )
- Q5: 安全管理措置としての院内規定を作成していますか?  
A: 既に作成している B: 検討中 C: 何からどう対応すべきか分からない D: 未検討
- Q6: 医療安全管理に関する院内研修を行っていますか?  
A: 外部から講師を呼んで行っている B: 院内のリスクマネージャーが中心に行っている  
C: 外部研修に参加するのみ D: 特に何もやっていない
- Q7: 相談窓口の設置は検討していますか?  
A: 既に設置している B: 検討中 C: 何からどう対応すべきか分からない D: 未検討
- Q8: 今後、医療安全に対応するために必要と思われる情報をご記入下さい。  
( )
- Q9: 医療安全管理体制が義務化されましたが、どの対応が一番お困りですか?  
A: 安全管理 指針の作成 B: 職員研修(a. 安全管理 b. 院内感染 c. 医薬品 d. 医療機器)  
C: 相談窓口の設置 D: その他( )
- Q10: 今後、医療安全に関する情報配信を希望しますか?  
A: 希望します(配信方法 a: メール b: FAX(番号 ) ) B: 希望しない
- Q11: 医療安全に関して現在困っている点がありましたらご記入下さい。

ご協力ありがとうございました。

# アンケート集計結果

## Q1 本日の講演はいかがでしたか？感想などもご記入ください。



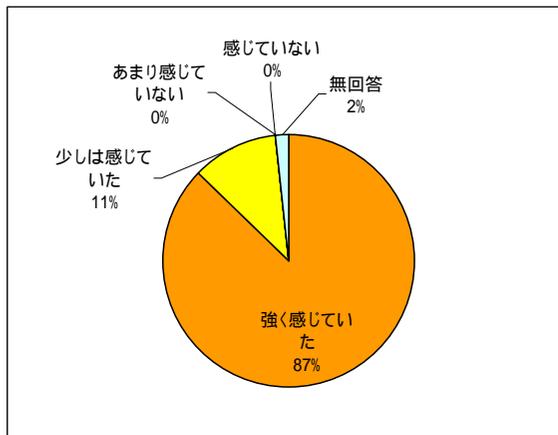
	A	B	C	無回答	合計
病院	32	81	15	14	142
診療所	1	3	0	2	6
歯科	2	6	1	0	9
薬局	1	2	0	0	3
介護	1	2	0	0	3
その他	5	9	0	0	14
未記入	1	3	0	0	4
総計	43	106	16	16	181

## 感想・要望

- ・コミュニケーションの必要性について、全国で考える必要性がある。
- ・一般的な内容であったが、再認識する機会となりました。福島先生の「患者が医者育てる」に感激しました。
- ・KYTに対してゆっくり基礎をやって欲しかった。
- ・コミュニケーションやKYTなどの安全を幅広く取り上げて良かったが、時間が足りなく感じた。
- ・どの講師も中味がいっぱい濃いで濃い3時間半でした。
- ・最先端の施設でのお話はとても参考になりますが、とてもそこまでは・・・という施設もあるのではないのでしょうか。
- ・組織的に取組む為のヒントを得られた。
- ・安全(医療)を改めて必要と感じました。
- ・気持ちに気合が入りました。自覚を持ってがんばれそうです。
- ・いろいろと勉強になりました。取り入れられることは、すぐに実行してみたいと思います。
- ・倉敷H.Pでの取り組みに対し、始める事の難しさの参考になりました。
- ・全国各地で開催してほしい。
- ・具体的で分かり易く、どの様に取組むか多少イメージが湧いた。
- ・基調講演の実施例が具体的に興味深かった。PDCAサイクルの実践がよく理解できた。
- ・講演内容がタイムリーで理解し易く工夫されていた。
- ・総論ではなく具体的な話を聞くことができ、満足できる内容でした。
- ・KYTの効率性、個々のレベルに合わせた具体的なことを聞きたい。
- ・KYTの具体的な内容(進め方)を聞きたかった。
- ・全ての講師がすばらしかった。(内容、プレゼンとも)
- ・講師の選抜が良かった。従来の研修内容より質的に満足でき、大変参考になりました。  
欲しい資料たくさんあります！
- ・当機構の今後の事業展開にも有用な情報がたくさんありました。
- ・今日のセミナーを現場にどのように還元していけるか、方法が今後の課題です。
- ・様々な具体的事例に基づくご報告は、大変分かりやすかったです。
- ・KYT・KYMの重要性を再認識できた。インシデントレポートの活用をしていきたい。
- ・パネルディスカッションが良かったです。医療と教育についてもっとお聞きしたかったです。
- ・コミュニケーションの重要性、患者さんの立場がよく理解できました。
- ・シンポジウムは患者・家族の参加を！
- ・研修会を期待しています。
- ・医療現場でPDCAの取り組みをもっと行って欲しい。
- ・コミュニケーションの取り方・考え方が参考になった。Ptをサポートする人は必要。
- ・コミュニケーション・スキルの育成、異業種間のワークショップによる、医療安全への取組みの重要性をあらためて感じています。

## アンケート集計結果

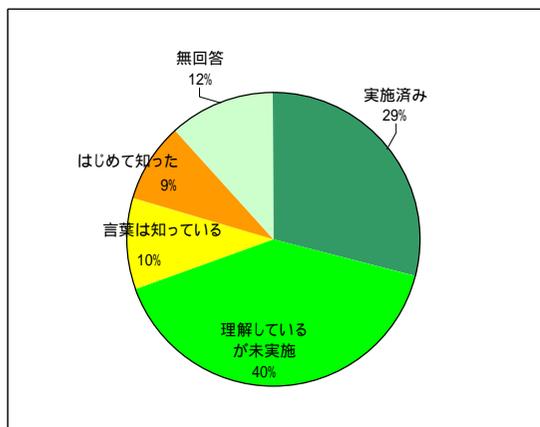
## Q2: 安全な医療の提供において、コミュニケーションの必要性を感じておりますか？



Q2: 所属

	A	B	C	D	無回答	合計
病院	153	17	0	0	2	172
診療所	0	1	0	0	0	1
歯科	0	0	0	0	0	0
薬局	2	1	0	0	0	3
介護	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
未記入	3	1	0	0	1	5
総計	158	20	0	0	3	181

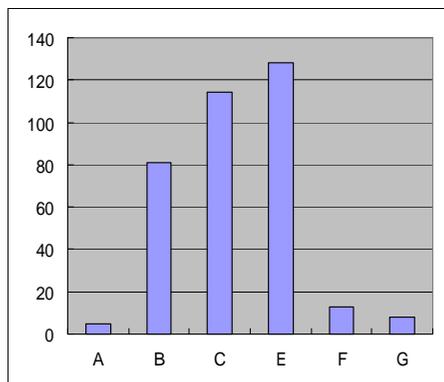
## Q3: 危険予知トレーニングを知っていましたか？



Q3: 所属

	A	B	C	D	無回答	合計
病院	49	69	11	10	3	142
診療所	2	1	0	3	0	6
歯科	2	3	3	1	0	9
薬局	0	1	0	2	0	3
介護	0	2	1	0	0	3
その他	4	4	3	1	2	14
未記入	1	0	2	1	0	4
総計	58	80	20	18	5	181

## Q4: 医療安全管理に対してどのように取り組まれていますか(複数回答可)。



Q4:

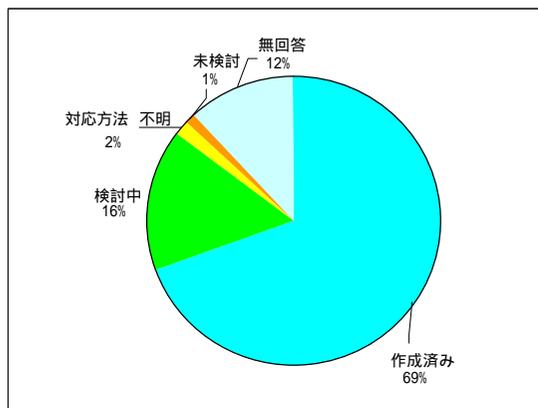
	A	B	C	E	F	G	合計
計	5	81	114	128	13	8	349
A:これまでの対応で十分							
B:専従のリスクマネージャーを配置							
C:院内研修を定期的を実施							
E:委員会活動を定期的を実施							
F:何からどう対応すべきか不明							
G:その他							

## Q4: G その他

- ・具体的にどのような形にしていくのかわからなかったが、独立の取り組みと指針の作成を作っていきたい。
- ・医療安全管理部門を設置している。
- ・メーカーからの立場で情報発信している。
- ・医療機関への指導が仕事
- ・月に1度院内会議を行っている
- ・一応委員会はあるが、活動は？

## アンケート集計結果

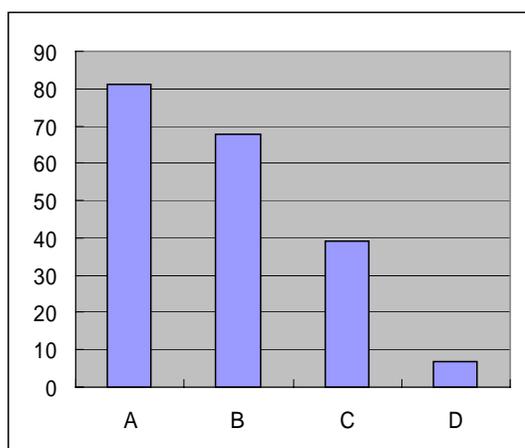
## Q5:安全管理措置としての院内規定を作成していますか？



## Q5: 所属

	A	B	C	D	無回答	合計
病院	111	21	2	1	7	142
診療所	2	4	0	0	0	6
歯科	5	4	0	0	0	9
薬局	2	0	1	0	0	3
介護	2	0	0	1	0	3
その他	5	0	0	0	9	14
未記入	0	0	0	0	4	4
総計	127	29	3	2	20	181

## Q6:医療安全管理に関する院内研修を行っていますか？



## Q6:

	A	B	C	D	合計
計	81	68	39	7	195

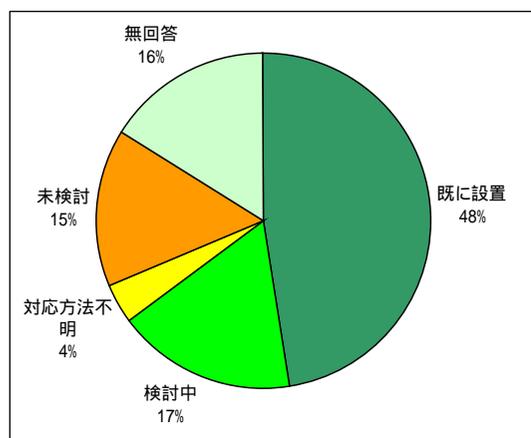
A:外部の講師を呼ぶ

B:専従のリスクマネージャー中心

C:外部研修に参加

D:何もやっていない

## Q7:相談窓口の設置は検討していますか？



## Q7: 所属

	A	B	C	D	無回答	合計
病院	78	25	4	18	17	142
診療所	2	1	1	2	0	6
歯科	1	2	1	5	0	9
薬局	1	0		2	0	3
介護	0	1	1	0	0	2
その他	4	2	0	0	5	11
未記入	0	0	0	1	7	8
総計	86	31	7	28	29	181

A:既に設置

B:検討中

C:対応方法不明

D:未検討

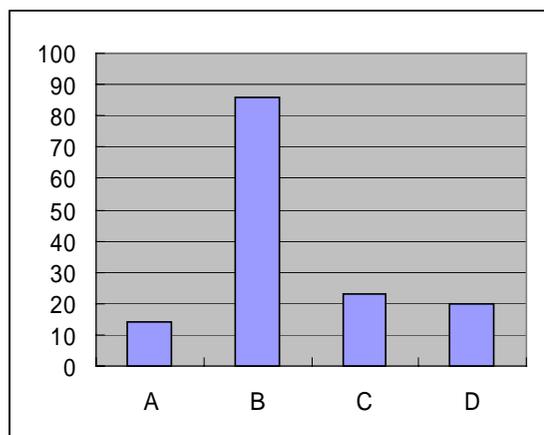
## アンケート集計結果

## Q8: 今後、医療安全に対応するために必要と思われる情報をご記入ください。

- ・倉敷中央病院の講演であったように、「事故想定訓練による意識付け」の必要性
- ・院内での対応全てを統括する医療安全のリーダーの役割と計画の内容
- ・医師の積極的参加
- ・お互いの取り組みの交流ではないでしょうか。
- ・人員の減少による過重労働からのエラーの増加の予防
- ・精神科における医療安全が取り上げられることは少ないですが、精神科ならではのものはないでしょうか？
- ・施設間の情報交換
- ・他院の情報
- ・老・健では、看護・介護と一緒に介護に携わっている。介護の医療への参加が増えてきているが、範囲は？  
そのために起きる事故が増えている。
- ・身近に同規模の医院などの対応など、知りたいです。
- ・内服治療が主なので、内服の合包、錠数計算、処方箋との照合
- ・患者も含めた医療安全に関する指針
- ・企業の知財に学ぶこと、知財学会とのコラボ
- ・小規模診療所の対応の仕方に関する情報
- ・研修の継続
- ・材料メーカー、薬品会社、現場の情報交換、共有
- ・医療安全に対する診療報酬の細分化
- ・大病院でのシステムの他、中・小病院での取り組みを知りたいと思います・・・
- ・エラーが起きる前後共に重要なのは十分な説明＝人間関係(Ptと医療、他職種間)
- ・患者と共に、地域(クリニック等)と共に
- ・救急安全対策(急患など)、病院毎でない共通マニュアル、安全に対する必要な予算、外国の現状(アメリカ以外)
- ・発生後の対応を具体的に
- ・ネットワーク作り
- ・研修の充実のため、研修の情報、又は出張講師に来てもらえる先生の情報
- ・メディエーション、フィードバック体制、分析手法
- ・ケースカンファレンスを行い、直接的要因だけでなく、背後的要因を出し合い、個性のある対策を出すようにしたい。
- ・患者の医療参加、コミュニケーション力向上のための具体的な取組事例
- ・報道される事例に対する、使用された器具、背景要因は何だったのか等。
- ・インシデント・アクシデントの分析方法 現場にフィードバックする。
- ・コミュニケーション、チーム医療
- ・医療事故情報、KYT、RCA、RM養成講習会
- ・医療職内(医師と看護師の)コミュニケーション不足、チームワークがなっていないことを痛感していますので、それへの対応。敵対関係になっている。
- ・インシデント・アクシデントの分析方法
- ・医師への安全管理の意識の拡大
- ・医療従事者の意識改革のための方法
- ・患者・家族の意見
- ・チーム医療
- ・改善防止策の共有、研修の講師に関する情報
- ・KYT、5Sの導入予定
- ・情報を共有して啓蒙に努めていくこと
- ・職員が事故について共通認識をする。
- ・事故を起こさないことが前提ですが、起きてしまった場合も含め、メンタル面の対応について、人の問題・介入の時期など知りたいです。

## アンケート集計結果

## Q9: 医療安全管理体制が義務化されましたが、どの対応に一番お困りですか？



Q9:					
	A	B	C	D	合計
計	14	86	23	20	143
A:安全管理 指針の作成					
B:職員研修					
C:相談窓口の設置					
D:その他					

## Q9:D その他

- ・これらの対応全てをどのように行うかがわからない
- ・Dr. の意識の低さ
- ・医師の認識を変えること。(研修を含め)
- ・病院全体としての安全に対する取組み意識を向上させる。
- ・職員は看護師1人、外来30～50人/日の小規模施設でどこまで必要か。  
毎日、注意に注意を払い、医療行為を行っているが・・・
- ・研修への医師の参加の低い点
- ・業務の役割分担
- ・もっと充実させたいが、マンパワーに余裕がないこと
- ・医師の参加(研修)
- ・知らない
- ・全てのことに関して職員への周知
- ・マニュアルの整備
- ・診療部の体質、旧態依然として変化ない。
- ・医師の研修
- ・研修への職員・医師の出席・医療安全の人数が少ない
- ・医療安全の人数が少ない
- ・医師の参加、安全文化の醸成
- ・組織横断的に活動する必要性について、管理者の意識が低い。
- ・スタッフ職員への周知、看護師・医師・薬剤師・検査・リハビリ他全ての職員へ

## アンケート集計結果

## Q11:医療安全に関して現在困っている点がありましたらご記入ください。(2-1)

- ・医療安全の取り組みについては、病院格差が大きいと感じた。病院全体で取り組むにはどうしたら良いか。
- ・施設、スタッフの意識、医師の医療安全に対する意識、経済面など、今までの体質にどのように対応していけば良いのかわからない。
- ・部署によって、安全に対して温度差がある。
- ・範囲が広いので、どこからやっていいのか分からない。KYTにしても何にしても、各課の協力が得られない。壁がある。看護課の中にも、仕事にウエイトを置いてない職員もあり…
- ・専従者2名(NS、事務)にて活動を広げることが難しい。
- ・職員一人一人に徹底することが難しい。(日常業務が優先されてしまう)
- ・KYTトレーニングを実際取り入れ、インシデントレポートをKYTレポートで書き始めたが、職員全体にKYTとは何かの研修をし始めようとしています。“今のままでよい、各自が注意すればよい”と思っている職員の意識改革のため、効果のある研修は何か。
- ・医療安全に関する費用
- ・医療安全推進室を設置しているが、専任リスクマネージャー(専従)に負担が多く、運営が難しい。医師の研修参加が難しい。
- ・操作方法等が異なる医療機器の混在。(例)同じ会社の機器でも購入時期により、バージョンが変わっていて、操作が異なる。
- ・このようなセミナーが、病院のトップマネージャーにとって、必須であれば良いと思います。
- ・医師の安全参加(処方箋の記入の仕方、医師の責任部分を看護師がしている事など)
- ・同じ人が何度もミスを繰り返すことに関して、どのように対応指導していったらいいのか悩んでいます。
- ・ルールを守らない人(大体決まっている。新人は守っている。)をどうしたらいいか。
- ・今後認知症の方(予測できない事故もある)についてのKYTの方法について学びたい。
- ・オーナー、院長の考えが明確に出されない。
- ・パラメディカルの人たちが意外と無関心
- ・特養での転倒や内出血について、それぞれ筋力低下や高齢と捉えて良いのか？人員不足でも防止できるものなのか？看護師は夜間勤務なく、報告で終わっている現状に、心配・不安。  
(問題提起すると、リストラになりそう！)
- ・研修会の内容と分析したものをどう活用することが良いか？検討中である。
- ・安全に関して自分と職員で、できる限りの注意力、集中してミスのない様、全力で取り組んでいるとは思っているが、まだ具体的指針の作成には至っていない。
- ・医師を(積極的)参加にするための方策
- ・医療安全管理者の研修を申し込んだら、定数を超過しまい、受けられませんでした。  
間口を広くしてほしいです。
- ・病院の規模からして、専任のリスクマネージャーを配置することが出来ず、計画的に進めることが難しい。
- ・まず、Q8に書いたことを知りたい。安全には予算が必要だが、国の対策は？人不足への対応は？
- ・事故を起こしてしまったスタッフに対する、周囲の非難が、師長を始め多数存在されています。今後、教育の啓発に取り組んでいきたいです。
- ・医師の意識改革を始めとした職員の意識
- ・ヒヤリハット(事故)報告書を書くことを拒む人が多い。
- ・医師の意識が低く、チームを乱しているという点
- ・必須の受講義務があれば良いと思う(Dr. Nrs)
- ・インシデント・アクシデント集計は電子化し、数ではなく内容が重要であることは理解したが、スタッフにどのような形でフィードバックすればよいのか？内容のどの部分をフィードバックすると役立つのか、試行錯誤の毎日です。フィードバックの仕方は難しい。

## アンケート集計結果

## (2-2)

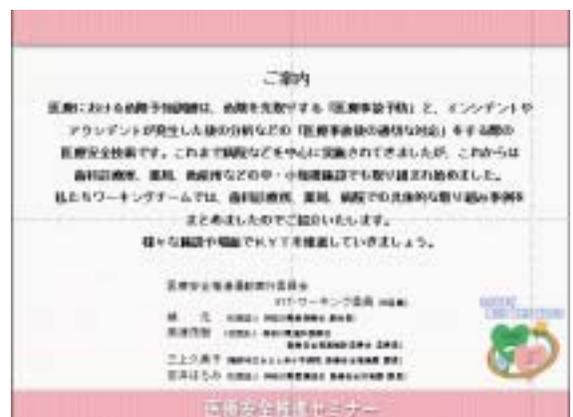
- ・医師への教育・指導方法
- ・医療安全推進にはお金が掛かります。感染対策、ルート離脱防止に伴い、閉塞回路、ロック式へ変更したら、月250万円増となりました。使い方にも問題があると思い、今後検証予定ですが、費用を算出するのは院内では難しいです。あとは委託業者への教育・指導が難しいです。
- ・患者とのコミュニケーションの重要性を医師にもっと周知すること。医療機関、医療についての相談が多数寄せられている中、実際は医療事故・医療過失ではないのに、誤解や感情的なもつれにより、「訴えることも考えている」となってしまうケースが少なからず見受けられる。医師側はコミュニケーション(言語だけでなく態度も含め)の不適切がそのような事態を招いていることに気付いておらず、最近の患者は権利を主張ばかりする等と受け止めがち。病院ボランティアやNPOを活用したPatient Advocater的なシステムの構築について、モデル事業を行ってみるなど、医療提供側と患者側が対立しがちな、医療現場の変革を図るための政策的な模索を始めるべき。
- ・現場に対策を浸透させること
- ・医療安全教育の推進。「忙しい」という口実がいろいろな状況で蔓延しているので、安全対策が進みにくい。医師、看護師共に。
- ・医師が参加してくれない。医療安全に対し、拒否反応が強い。
- ・看護補助員(派遣やパート職員)への院内研修の義務化ができていない。
- ・医療安全教育の必要性・大切さへの無理解・無関心
- ・病院内での問題、危険が非常に多く感じ、何から手をつけていくのかわからない。高頻度のインシデントを優先的に対策を取っているが、重症に移行しやすい症例も重点的に行っていく必要があると感じた。
- ・このようなセミナーは医療者の参加が多いと思いますが、一般の方にはどのように参加してもらってますか？
- ・医療安全に関しての医師・コメディカルの関心の低さ(インシデント件数の少なさ、医師・事務はゼロに等しい。それに対する問題視がない)
- ・委員会のあり方、医師の参加がない
- ・関係団体との連携
- ・日常業務が多忙で、委員会活動の進行が遅い。
- ・医療安全に関わる活動を行うための人員不足
- ・外来部門における実施(入院に比べ実施していない)
- ・組織のトップ・管理者のリーダーシップの発揮
- ・指針を作成したが、今後再読し、チェックすることはないように思える。施設内にそのあたりの意識がない。
- ・安全へのポイントは自覚。しかし職場にそんな人材はいるのだろうか？必要はわかるが。
- ・スタッフのモチベーションを上げるのが難しい。
- ・医療安全支援センターにいますが、相談内容を医療現場にどのように返すか。
- ・患者側も医療ミスに関して意識が強くなり、過敏に反応してしまう点があり、説明に困ることがある。

# KYT展示パネル



## KYTワーキング委員

- 高津 茂樹 (社)神奈川県歯科医師会  
医療安全推進検討委員会 委員長
- 嶋 元 (社)神奈川県薬剤師会 副会長  
(社)日本薬剤師会  
医療事故防止検討会 委員長
- 三上 久美子 横浜市立みなと赤十字病院  
事務部医療安全推進課長
- 安井 はるみ (社)神奈川県看護協会  
医療安全対策課長



# KYT展示パネル

## 危険予知訓練の歴史

- 昭和30年代： 高度経済成長の光と影  
安全性・生産性・効率性→労働災害多発
- 昭和39年： 「労働災害防止団体等に関する法律」  
中央労働災害防止協会設立
- 昭和40年： 「ゼロ災害全員参加運動」スタート  
全国産業安全衛生大会でゼロ災害運動を強力に推進する決議文採択
- 昭和49年： 住友金属工業（株）和歌山製鉄所  
危険予知訓練（KYT）開発  
改良を重ねる
- 昭和57年： 「新KYT」→国鉄で実施したものを組み込む

医療安全性推進セミナー

## KYTを実施する上で大切な考え方

**ゼロ災害運動の基本理念**  
人間尊重  
一人ひとりカケガエノナイひと

**リスク・クライシス低減の原則**

医療安全性推進セミナー

## 用語の使い方

- ★「危険予知訓練」→KYT  
「キケン(OKEN)・ヨチ(YOCHI)・トレーニング(TRAINING)」
- ★「危険予知」→KY  
「キケン(OKEN)・ヨチ(YOCHI)」
- ★「危険予知活動」→KYK  
「キケン(OKEN)・ヨチ(YOCHI)・カッワ(KATUDOU)」

医療安全性推進セミナー

## 危険予知活動と波及効果

コミュニケーション 日常会話 → 決定型KYT  
チームワーク セミナー・研修 → タッチアンドコール

決定型KYT → 人KYT, イラストKYT, 動画型KYT  
タッチアンドコール → インシデントレポートKYT

動画型KYT → 動画型KYT  
インシデントレポートKYT → インシデントレポートKYT

効果：高層まで広がる可能性, 動画型KYT, 動画型KYT

医療安全性推進セミナー

## 医療安全技術としての医療KYT

産業界で生まれたKYT  
—医療界との違いは何か？！

産業界: 製造業

対象:モノ、ヒト

労働災害防止対策

医療界: 対人サービス業

顧客との共同生産  
生産と消費の同時性

労働災害防止対策  
医療安全管理

医療安全性推進セミナー

## KYT手法

**第1ラウンド**  
現状把握

どんな危険が潜んでいるか

危険源を洗い出すことにより、作業手順に注意点を盛り込む

※ポイント※  
①0は危険源を洗い出す。一歩も引かない。②0は危険源を洗い出す。一歩も引かない。③0は危険源を洗い出す。一歩も引かない。

**第2ラウンド**  
本質的危険

危険源を洗い出すことにより、作業手順に注意点を盛り込む

※ポイント※  
①0は危険源を洗い出す。一歩も引かない。②0は危険源を洗い出す。一歩も引かない。③0は危険源を洗い出す。一歩も引かない。

**第3ラウンド**  
対策立案

危険源を洗い出すことにより、作業手順に注意点を盛り込む

※ポイント※  
①0は危険源を洗い出す。一歩も引かない。②0は危険源を洗い出す。一歩も引かない。③0は危険源を洗い出す。一歩も引かない。

**第4ラウンド**  
チームでの行動目標と危険源の解消

チームでの行動目標と危険源の解消

※ポイント※  
①0は危険源を洗い出す。一歩も引かない。②0は危険源を洗い出す。一歩も引かない。③0は危険源を洗い出す。一歩も引かない。

医療安全性推進セミナー

## セミナー風景



### 開会挨拶

長谷川 友紀 氏  
東邦大学医学部社会医学講座 教授

### 来賓挨拶

佐原 康之 氏  
厚生労働省 医政局総務課  
医療安全推進室長



### 閉会挨拶

人見 祐 氏  
厚生労働省認定 認定個人情報保護団体  
内閣府認証 特定非営利活動法人  
医療ネットワーク支援センター 理事長

## セミナー風景

### 基調講演

「医療と患者を結ぶコミュニケーション」

「医療現場における医療安全対策」



岡本 左和子 氏  
東京医科歯科大学大学院  
(元・ジョンスホプキンス大学病院国際部  
ペイシェントアドボケーター)



橋本 徹 氏  
(財)倉敷中央病院 呼吸器内科部長  
(医療安全推進室)

### パネルディスカッション

「医療現場における危険予知トレーニングの実際」



司会 中山 健夫 氏  
京都大学大学院  
医学研究科 教授



福島 統 氏  
東京慈恵会医科大学  
医学部医学科 教授  
教育センター長



杉山 良子 氏  
武蔵野赤十字病院 看護師長  
医療安全推進室  
専従リスクマネージャー



嶋 元 氏  
(社)神奈川県薬剤師会 副会長

## セミナー風景



会場発言

神奈川県歯科医師会

高津 茂樹 氏

## 展示風景

医療安全推進運動実行委員会 KYTワーキング委員



テイコクメディックス株式会社様



テルモ株式会社様



株式会社安井電子出版様





## 告知

## 専用ホームページ

「医療安全推進運動」サイト <http://www.medical-bank.org/anzen-net/>

**医療安全推進運動**

To Your Health

- 医療安全推進運動について
- 平成18年度医療安全推進週間
- 映像ニュース MedicsTV
- リンク
- 問い合わせ
- 医療ネットワーク支援センター
- TOPへ

**医療安全推進セミナー**

高齢化の進行に伴い、人々の安全・安心への関心はますます高まっております。特に医療は健康面での生活を支える重要な社会インフラであり、平成18年6月第五次医療改革(今年4月施行)の医療制度改革においては「利用者(患者)の視点に立った医療の提供」が打ち出され、病院のみならず診療所にも一層の安全管理体制の整備が義務付けられるなど、医療安全確保対策の推進は課題のひとつとなっています。

そこで、このたび以下のような病院、診療所、歯科診療所、薬局等の各医療提供施設の従事者を対象に、医療提供の現場における医療安全管理対策のためのセミナーを開催致します。主として、医療従事者を対象にしていますが、医療に関心のある一般の方の参加も歓迎致します。

医療安全推進セミナー  
はまぎんホール(横浜)  
2008年1月26日(土)  
申込受付中!

## 掲載ホームページ

- 日本医師会 「日医白クマ通信No.823」
- 日本薬剤師会 「TOPICS」
- 日本看護協会 「学会イベント情報」
- 日本病院会 「新着情報」
- 神奈川県医師会 「重要なお知らせ」
- 神奈川県歯科医師会 (会員専用サイト)
- 神奈川県看護協会 「新着情報催し物」
- 島根県 「島根県医療安全相談窓口」
- (株)医療新聞社 「イベント：医療健康情報」
- 臨床工学技士リンク集 「臨床学会セミナーの予定」

## 掲載誌

### 医療団体会報誌

- 日本看護協会「協会ニュース」12月号（2007.12.15）
- 日本病院会「日本病院会ニュース」（2007.11.25）
- 神奈川県医師会「神奈川県医師会報」12月号（2007.12）
- 日本病院会「病院会ニュース」 第2006号（2007.12.5）

### 医療系雑誌新聞媒体

- 「医療タイムス」 12月24日31日号（No.1849）  
（株）医療タイムス
- 「社会保険旬報」 No.2336（2007.12.11）  
（株）社会保険研究所
- 週刊「日本医事新報」 No.4367（2008.1.5）  
（株）日本医事新報社
- 月刊「臨床栄養」 Vol.112 1月号（2008.1）  
医歯薬出版（株）
- 週刊「医学のあゆみ」 Vol.224 No.2（2008.1.12）  
医歯薬出版（株）
- 週刊「Medical Tribune」 12/27号  
（株）メディカルトリビューン
- 週刊「薬局新聞」 第2816号（2008.1.6）  
（株）薬局新聞社
- 「健康ジャーナル」 2007年11月30日号  
健康ジャーナル

## 取材記事

「医療安全」3月号 No.15 (2008.2) (株)学習研究社 メディカル出版事業部

NEWS

医療安全推進  
セミナー開催

2008年1月26日、横浜市のはまぎんホールにおいて医療安全推進セミナーが開催された。主催は医療安全推進運動実行委員会。開会に先立ち、設立委員の一人である長谷川玄紀氏(東邦大学医学部社会医学講座教授)が「近年、医療技術の進歩はめざましいが、技術革新に伴うヒューマンエラーの発生も医療安全における大きなリスクとなっている。医療に携わる人々とさまざまな技術開発に携わる企業との連携で、医療の安全文化醸成と医療安全の推進をはかっていきたい」と挨拶。今回は「コミュニケーション」「医療安全対策」「危険予知トレーニング(KYT)」がキーワードとなるセミナーであった。

岡本左和子氏(ヘルスケア・コミュニケーション)は、患者中心の医療の実践には、何が課題で何が不足しているかを、医療者と患者との具体的な会話例で紹介した。コミュニケーションは「医療者は医療に責任をもち、患者は医療の結果に責任をもつ」こと

につながると紹介した。

医療安全対策では、橋本義氏(岡山県・倉敷中央病院医療安全管理室)が、安全・安心な医療の実現は人々の願いでありながら、現実には「不確実なものであり、100%安全な医療はない」と最近報道された医療事故を取り上げながら、医療事故を防ぐための自施設の医療安全管理体制を紹介した。誤がん剤に対する取り扱い、造影剤による副作用の説明、院内ラウンドによる転倒転落事故防止、事故想定訓練など、医療安全に対する組織作りと具体的な行動を紹介した。

パネルディスカッションは、中山健夫氏(京都大学大学院教授)の司会で進行。医療現場におけるKYTをどう行っていくか、医師の立場から福島純氏(東京慈恵会医科大学教授)、薬剤師として嶋元氏(神奈川県薬剤師会副会長)、看護師は杉山真子氏(武蔵野赤十字病院看護課長)が参加。それぞれ15分程度のレクチャーを行った。その後、参加者も含め危険予知のスキ

ルをどうするか、そのトレーニング法についてディスカッションが行われた。

参加者は医療従事者およそ350名。このうち7割くらいが看護師と発表があった。患者に接する機会が最も多い看護師であるが、医療安全に対する関心の高さが伺えた。

最後に、今回の実行委員会のバックボーンであるNPO法人医療ネットワーク支援センターの人見弘理理事長が「業種を超えて医療の安全性とコミュニケーションによる情報の共有をめぐり、今後もさまざまな活動を行っていく」と挨拶し、セミナーは終了した。

今回のセミナーの内容については、医療情報・検査配信サービスMedics TVで2月4日(金)放送予定。下記にアクセスすると、番組映像ニュースへアクセス。医療安全推進運動：  
<http://www.medical-bank.org/iruzen-net/>  
映像ニュース：  
<http://www.medical-bank.org/medicstv/>

# 動画配信

## 映像ニュース

「医療安全推進運動」サイト <http://www.medical-bank.org/anzen-net/>



リンク



「メディックスTV」 <http://www.medical-bank.org/medicstv/>